

令和7年度 学 校 評 価 書

学校名	北海道白糠高等学校 全日制課程
-----	-----------------

1 重点目標

- (1) 自己肯定感の育成に向けて、基礎・基本の定着と指導と評価の一本化した充実を目指した工夫改善と学習習慣の確立に努める。
- (2) 自走できる生徒の育成に向けて、主体的な自己管理能力の育成と望ましい基本的生活習慣の定着に努めるとともに、家庭・地域と連携しながら生徒理解に努め、個に適した支援を推進する。
- (3) 経験にもとづくキャリアに対する意識を高め、自己を理解し、主体的に進路を選択し、積極的に実現に挑む姿勢の育成を図る。
- (4) 健康・安全についての理解を深め、自他の生命の尊重と安全・環境への意識の向上に努める。

2 経営方針

- (1) 自走できる生徒の育成に向けた取組の推進
 - 町内外の教育資源を最大限活用し、生徒の個性を最大限引き出す多様な学びを構築し、生徒自らが自走する姿を発信し、皆から選ばれる学校を目指す。
- (2) チーム白糠の積極的活用
 - CSやコンソーシアム、CN、久遠塾等、地域社会や関係機関、保護者の力を積極的に活用し、チームで生徒の成長のために歩んでいく学校を目指す。
- (3) 働き方改革の推進
 - 個々の能力に応じた業務の平準化を図り、実感できる改革を推進する。
- (4) 教職員研修の充実
 - 校内外の研修の積極的推進、人事評価シートの活用等により、教職員のスキルアップを図るとともに、生徒に積極的に主体的な学びに取り組む姿勢を見せ、範を示せる教職員集団を確立する。

3 自己評価結果について学校関係者評価実施

- 自己評価の達成状況・適切さの欄は（「A=十分である」、「B=概ね十分である」、「C=不十分である」、「D=改善を要する」）を示す。
- 右の欄、学校関係者評価：自己評価の適切さの欄は、**「A=適切な評価である」、「B=概ね適切な評価である」、「C=評価がやや不十分である」、「D=改善を要する」**を示す。
- 右の欄、学校関係者評価：改善に向けた取組の適切さの欄は、**「A=適切な取組である」、「B=概ね適切な取組である」、「C=取組がやや不十分である」、「D=改善を要する」**を示す。
- ※青い部分が教職員による自己評価結果等、黄色い部分が学校関係者評価結果である。
- ※学校関係者評価は学校運営協議会委員により実施。

分野 領域	重点的な取組内容（上段）	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価		
	評価指標・評価基準（中段）	達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の 適切さ	改善 への 取組 の 適切さ	意見
	具体的取組の状況（下段）						
学習指導 の改善・ 充実	生徒が「わかる」「興味関心を持てる」授業作りを行う。 授業評価アンケートの質問項目において「授業がわかりやすい」で80%以上の肯定回答を得る。 「授業に興味関心を持ち、もっと知りたいと思う」で80%以上の肯定回答を得る。	3.6	3.4	教員同士がお互いの授業を参観できる機会を設け、授業改善に取り組みやすい環境を構築する。効果的な指導方法を教員間で共有し、より分かりやすい授業づくりに活かす。生徒一人ひとりの学習に対する困り感を共有し、個別最適な指導の充実を図る。	3.7	3.9	・「もっと知りたいと思う」と答えなかった20%弱をどのように上げていくのかを検討する必要がある。
	「授業がわかりやすい」の肯定回答は96.9% 「もっと知りたいと思う」の肯定回答は84.2%	A	A				
	生徒の基本的な学習習慣を確立させ、学力を向上させる。 各学年の成績優秀者が50%以上になる。 成績不振者がゼロになる。 成績優秀者は62.9% 成績不振者は15.6%（前期末）	3.5	3.1				
	A	B					
保護者・地域への情報の発信	保護者・地域・関係機関と交流を深め、教育活動の外部発信を行う。	3.3	3.3	概ね今年度の取り組みは良かったと思われる。コミュニティ・スクールを活かした地域連携をこれからも継続していく。インスタグラムについては、詳しい教員からの発信にとどまっていることから、多くの教員がアプリを使いこなせるよう研修していく。	3.3	3.5	・継続して活動内容の発信がされている。今後は、広報活動による効果を検証していく必要がある。
	ホームページに年間90以上の記事の投稿を行う。 地域・小中学校との交流・連携を年間10回以上行う。 更新が滞っているSNSを再開する。						
	ホームページ投稿数は78 地域との交流・連携は16回 インスタグラム・YouTubeによる発信を再開						
PTA活動の活発化	PTA活動の活性化、推進に努める。	3.3	3.5	PTAバザー・PTA研修会（そば打ち）とともに、多くの会員の皆様に参加していただけたと考えている。今後も、より気軽にPTA活動に参加していただけるよう実施内容や会議の回数を工夫していく。	3.5	3.4	・目標に満足してしまったり減少してしまうことも考えられる。新たな取り組みや工夫が大切である。 ・町民参加が増すと会員の参加が活発になると思う。
	学校祭のPTAバザーに10名以上の会員が参加する。 PTA研修会に15名以上の会員が参加する。						
	学校祭PTAバザー参加者 会員9名 PTA研修会の参加者24名中 会員15名						

分野 領域	重点的な取組内容 (上段)	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価		
	評価指標・評価基準 (中段)	達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の適 切さ	改善 への 取組 の適 切さ	意見
	具体的取組の状況 (下段)						
組織的・ 計画的進 路指導の 充実	(進学) 生徒に対して志望校合格のための適切な指導と情報提供を行い、公営塾などと連携し、第一志望校合格と進学後に必要な学力を身に付けさせる。学習目標を早期に定め、学びに向かう力を育み、個に応じた指導を充実させる。	3.8	3.6	・1年生からキャリア教育を充実させるために、地域協働応援団(コンソーシアム)を活用し、地域と連携した活動(公営塾との連携)を計画・実施する。 ・三者面談を定期的に行い、保護者等に適切な情報提供を行う。	3.7	3.9	・離職率が4分の1を超えてしまっていることから、進路活動前に、就職後のイメージを持ってもらうことにより力を入れることも必要だと考える。 ・面談の体験は生徒の力となるため、継続するべき。
	進学決定率100%	A	A				
	・進学決定率100%(5名/5名)						
	(就職) 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。個に応じた就職指導を展開し、生徒が主体的に取り組む力を身に付けさせる。地域協働応援団(コンソーシアム)や関係機関、保護者等と連携し、生徒に対して適切な指導と情報提供を行う。	3.1	3.0	・1年生からキャリア教育を充実させるために、地域協働応援団(コンソーシアム)を活用し地域と連携した活動を計画・実施する。 ・三者面談を定期的に行い、保護者等に適切な情報提供を行う。 ・早期離職を防ぐために、進路活動中はもとより、内定後の準備期間に必要な指導を計画・実施する。	3.4	3.4	
就職決定率100%、R6卒業生離職率20%以下	B	B					
・就職決定率80%(8名/10名) ・R6卒業生離職率26.7%(R7.11月現在)							
自立心を 育てる指 導の徹底	Q-Uを活用し生徒理解のためのスキル向上に努める。外部機関(スクールカウンセラー、サポステ、釧路鶴野支援学校PT)と連携して適切な支援を行い、教育相談の充実を図る。	3.5	3.4	・Q-Uに関する校内研修を実施したことで、Q-Uを活用した学級経営及び生徒理解について、結果の見方、分析方法、個別面談実施時のポイント等について全教職員で理解を深めることができた。引き続き、アセスメントを活用した教育相談の充実を図っていききたい。 ・継続的にSCやPTを活用し、早期に適切な支援へと繋げることが出来るよう、引き続き連携を図る。	3.5	3.7	・生徒理解のために個人面談等を継続的に行うことが重要である。
	Q-Uアンケートを年3回実施と中途退学者率の低減	A	A				
基本的な 生活習慣 マナーや モラルに 関して組 織的な指 導体制の 確立	基本的な生活習慣(あいさつ、言葉遣い、身だしなみなど)の確立に向けた指導体制の構築。交通安全教室、薬物乱用防止講話の実施。情報共有の徹底。できる指導、理解させる指導の実践。	2.9	3.0	・大部分の生徒は定められたルールの中で生活しているが、一部そうではない者もいる。生徒が気持ちよく生活を送れるよう教員が一枚岩となり生徒を支援していく。 ・日々の学校生活の中で、積極的な声掛けを生徒に行っていく。 ・次年度以降の各種行事では生徒により体験させるような内容を実施することを検討中。 ・今後とも各種行事のアクティブリコールを行い生徒の精神的な成長を促していく。	3.5	3.4	・生徒の向上心の評価して良いと考えた。 ・町職員の生活習慣でも、町民から挨拶がない、声が小さいと指摘されている。なかなか定着しないが、社会では必要なこと、人格否定まで発展する場合もあるので指導の継続が大切である。
	振り返りを行うことにより、自己指導能力の向上を確認 一般的なマナー・モラルの向上が見られたか	B	B				
他者を思 いやる心 と道徳心 の育成	通信や集会、講演会、情報モラル教室等を活用し規範意識を育て、SNSの正しい使い方をつけさせ、誹謗中傷やいじめといった問題行動を招かないよう未然防止に努める。いじめ把握のためのアンケートを年間2回実施。	3.5	3.5	・次年度以降の各種行事では生徒により体験させるような内容を実施することを検討中。 ・今後とも積極的ないじめの認知を行い、生徒が嫌な気持ちを持ったまま学校生活を送ることがないよう、速やかに個別の対応を行い、解決に努めていきたい。今年度は比較的にじめの認知件数は少なかったが目に見えない、教員に届いていない声もあるかもしれないということを含頭にて、常にアンテナを上げ、情報の収集、整理、指導に努めていく。 ・Googleフォームでの案内文・保護者向け文書等々の周知を行った。ただ配布するのではなく自身の経験談等を織り交ぜながら周知していくと、後日生徒から「先生の投稿見ました。」や「知りませんでした。」等の生徒のリアルな声を聞くことができた。次年度以降も生徒の知識や理解を深めていくために、通信の発行や生徒・保護者への周知を継続的に行っていきたい。	3.6	3.6	・世界の現状が、他者への思いやる心と離れつつある中、指導は難しさがあるが、根気強く指導していく他ないと思う。
	振り返りを行うことにより、いじめはよくないという理解が進んでいるか確認すると同時に、積極的ないじめの認知いじめの背景を把握し、具体的な対応策を進めているか	A	A				
長期休業前の通信の発行(夏・冬・(家庭学習期間には作成済み)、各種講話の実施、いじめアンケートについては今年度は3回予定。(2回は実施済み)いじめアンケートに関しては生徒指導主事を中心に聞き取り調査を行い、いじめの認知・情報収集を図り、生徒の不安を取り除こうとしているがクラス内で日々起きている小さな問題には担任・学年の力を借り、収めてもらっている場面も多々ある。							
・各種講話毎に振り返り(Googleフォームで実施)を行い、教員に回覧している。生徒の入力したのを見ると、我々が想定している以上にしっかりと話を聞き、吸収しようとする姿が多くみられた。							

分野 領域	重点的な取組内容 (上段)	自己評価		改善の方策	学校関係者の評価		
	評価指標・評価基準 (中段)	達成 状況	取組の 適切さ		自己 評価 の適 切さ	改善 への 取組 の適 切さ	意見
	具体的取組の状況 (下段)						
教職員の 「働き方 改革」に 向けた方 針等	働き方改革北海道アクション・プラン (第3期) の取組の一つである、「勤務時間の縮減」を実現するために、より実効性の高い働き方改革を推進していく。	3.3	3.4	朝の打合せは、毎週月曜日開催を原則とし、必要と判断したら他の曜日も開催することにする。 「残業で業務をこなそう」という考えから「効率よく業務を行う」という考えをより定着させる目的で、各自が自分で「ノー残業デー」や「残業少しデー」を設定し実行する。 勤務時間の縮減に向けたこれらの取組の実施率を高めるため、職員同士で声をかけ合い、超過時間を極力減らすような職場全体の雰囲気醸成する。	3.7	3.6	その人でなければならないこと、他の人に任せられることを整理し、“やってもらおう”を実施してはどうか。 時間に合わせた仕事の仕方を無くし、効率よく取り組むことが大切だと考える。
	教育職員の「時間外在校等時間」を、1か月で45時間以内、1年間で360時間以内とする。						
	時間外在校等時間について、1か月で45時間を超えた人数は11月末までで、のべ19名 (昨年度同時期までで28名) と確実に減少している。	B	A				

※学校関係者評価は学校運営協議会委員によって行う。記述部分は抜粋及び要約をしたものである。

学校関係者の評価は、評価平均値により次の評価基準によってA～Dの評価をしている。

評価基準 (1 ≤ D < 2.3 2.3 ≤ C < 2.9 2.9 ≤ B < 3.4 3.4 ≤ A ≤ 4)